

《ふるさと高槻を知ろう その五》 報告

—高山右近後の高槻城主 永井家のお話—

講師：毛利元久さん(高槻文化財スタッフの会)

2020年1月18日(土) 13:30~15:30 つどいの家 はむろ



立派な顔立ちにまず皆さん「毛利家の子孫？」と質問。「全く関係ありません」ときっぱり。

このシリーズは参加者多く、この日40名。

「永井家の盛衰」と題したレジメで滔々と90分も話をされた。



スクリーンには古文書や写真が写されたが、カメラでは捉えられなかったので残念ながら紹介できない。

初代 永井伝八郎直勝 は三河生まれで信康の小姓として歴史に登場。家康の危急の伊賀越えに随行。長久手合戦で大手柄を立て家康の側近として頭角を現す。この頃はまだ戦国時代なので面白い話が多い。

直勝の長男「尚政」は秀忠に仕え、次男「直清」も秀忠に仕えて大身の旗本となり家光とも関わる。徳川の大身の改易の使者など大役を果たし、後には幕府の西国支配(大阪城代仮役)の主役になっていく。その流れで高槻城主にもなる。

毛利氏の話は、色々な逸話や歴史資料の一端を紹介しながら、最後に「この話はうそです」と断言する。歴史資料は勝者の立場で、自分に都合の良い話になったり、でっち上げたりとなってしまうからだと言う。「でもまあこの辺は多分あった事だと思う」との解説も付く。

証拠に、江戸の古地図を紹介して「江戸城に近い地区の大名級の屋敷の近くに、いくつかの永井家の名前」があるので、徳川家の中では大身の旗本であった事が分ると言う。



いつもの冬の定番「ぜんざい」が振るまわれる。

餅が入っていて「喉につめない様にご注意」と当然のアナウンス。